

奉天俘虜收容所月報二月號月報ヨリ拔萃

臨時防疫班作業狀況報告

昭和十八年二月廿一日

一、作業ノ狀況

關總作命丙第九八號ニ基キ編成セラレタル關東軍防疫給水部臨時防疫班ハ二月十四日奉天ニ到着直チニ作業場ヲ奉天俘虜收容所内ニ開設シ十五日ヨリ作業ヲ開始セリ作業ハ所長以下ノ努力ト奉天陸軍病院ノ積極的援助ニ依リ圓滑ニ進涉シ十九日ヲ以テ一應隔離者ノ腸管系病原体檢索ヲ終了シ、引續キ下痢者ニ重點ヲ指向シ俘虜全員ノ病原体檢索ヲ實施セリ

二、患者ノ狀況

下痢者ハ俘虜總數一三〇五名中二四七名（十九日現在便回数三回以上ノ者）ニシテ所附軍屬ニ依リ下痢患者トシテ隔離病舎ニ收容セラレアル者一二四名（十九日現在下痢患者九〇名）ナリ其ノ他ノ下痢者一二三名ハ自覺症狀尠キヲ以テ健康者ト起居ヲ共ニシアル狀況ナリ

二月十三日ヨリ二十一日ニ至ル間ノ死亡者ハ五名ナリ

三、病原体檢索ノ狀況

1、隔離病舎ニ收容セラレアル一二四名ニ對スル腸管系病原体檢索成績左ノ如シ







剖檢九例ノ眼的所見ハ細菌性赤痢若クハアメーバ赤痢ト判断セラレ大腸内容物等ニ就キ病原體檢索ヲ實施セル三例中一例ヨリ赤痢アメーバA型パラチフス菌ヲ一例ヨリ赤痢菌ヲ檢出セリ

五、臨床症狀

別冊ノ如シ

六、防疫ノ狀況

別冊防疫實施計畫ニ依リ第三期豫防法ヲ實施中ナリ



奉天俘虜收容所ニ於ケル所謂戰爭  
營養失調症患者ノ臨牀症狀ニ就テ

昭一八、二、一七於奉天  
永山診療部長

コレヒドール及バタアン攻略戰テ皇軍ノ猛攻ニ遇ヒ降服シテ俘虜トナツタ米英ノ將士達ハ文字通りノ惡戰苦闘ノ上食物ノ不足瘴癘ノ侵襲等ニ惱マサレ疲憊ノ極度ニ達シテキタ。其ノ俘虜一四八五名ガアル目的ノ爲ニ奉天俘虜收容所（長松田大佐）ニ收容サレルコトニナリ客體カラ輸送サレタルノデアアルガ輸送ノ途中敵潛水艦ニ脅威セラレテ難航ヲ續ケル等止ムヲ得ザル給養劣惡不良等カラ俘虜健康狀況ハ一層惡化シ途中釜山其他ニテ既ニテ既ニ五七名ノ死亡者ヲ出スニ至ツタ。目下患者トシテ入室加療中ノモノ一六〇名奉天陸軍病院ニ入院中ノ傳染病（主トシテA型一バ）ヲチフスレハ八名現在健康者トシテ日々ノ業務中ノモノハ約三〇〇名前ニ過ギナイ狀況デアアル余ハ十七日所長以下ニ導カレテ戸村班長等ト共ニ其ノ入室患者一般臨牀症狀ヲ瞥見シ又本收容所醫官桑島中尉、大氣少尉ニ案内サレ見學ニ來合サレタ小林軍醫少佐等ト一緒ニ米英俘虜軍醫ヲ助手トシテ入室患者中今回ノ疾患ノ定型的ノ症例約二十例ニ付共々ニ詳細ニ檢診スルコトヲ得タ。其ノ臨牀所見ノ概要ヲ茲ニ摘録スル。

本症ノ主要症狀ハ高度ノ羸瘦ノ頑固ナル下痢貧血消耗性全身衰弱及浮腫



傾向等デアアル  
 外貌 營養高度ニ衰へ羸瘦強ク骸骨ニ皮ヲ纏ヒタルガ如ク羸瘦ハ特ニ四肢ニ於テ著明デアアル  
 顔色蒼白眼窠陷凹シ眼光鈍麻鼻稜尖銳受動的ニ無氣力デ餘程前カラノ慢性消耗性疾患ノ伏在ガ看取サレル  
 体温ハ詳檢セラルモ著シキ發熱ナク脈搏ハ搏數正常ナルモノ多ク著シキ徐脈ナシ重症例ニハ搏數増加シ性狀規則正シキモ概シテ細小重症ナルニ於テハ觸知シ難キアリ  
 意識ハ重症者モ著シキ障礙ナキガ如ク腦症等ナシ應答概ネ確實ニ見エ但重症者ハ尿ノ失禁アリ。醫官ノ談ニ徵スルニ最後マデ意識明瞭ニシテ忽然不歸ノ客トナリシモノ多シト  
 結膜及可視粘膜炎ニハ症狀ニ應ジテ中等度以上ノ貧血ヲ現ス  
 瞳孔ハ中等大散大乃至主縮少ニ傾キ對光反射ハ稍々遲鈍ナルガ如シ視力ノ障礙ハ著シカラス但角膜潰瘍（角膜軟化症）後ノ角膜白斑ヲ生ザルアリ。夜盲ハナシ  
 聽力妨ナシ  
 口腔可視粘膜炎貧血シテ蒼白咽頭ニハ充血ナシ蒼白ナル口蓋ニ血管ノ擴張ヲ透見スルアリ。出血潰瘍等ナシ  
 舌ハ扁平ノ感表面ハ乳嘴萎縮シテ平滑濕潤此ノ萎縮度ハ症狀ト平行ス舌



縁ニ「アフター」性潰瘍ノ存スルアリ

頸部淋巴腺ハ多クハ數個ノ程度之ヲ觸ル壓痛等ナシ

胸部、胸廓ハ細長鎖骨肋骨隆起シテ之ヲ算フベク打診上一般ニ反響ニ乏シキ低調音ヲ呈ス

肺、肺界ハ右乳線上第五肋骨乃至第六肋間ナルモノ多ク心ノ擴張像ナシ

呼吸音ハ若干ニ於テ粗裂ナル他著變ナク一、二ニ急性氣管支炎ノ症狀アルモ偶發的合併症トスヘキ心音ハ一般ニ低調特ニ重症者ニ於テ然リトス

時トシテ「モノト」ニツシユニ聞エ心尖部ニ於テ第一音不純或ハ軟性雜音第二音有響性ニ亢進シ從ツテ第二音が著明ニ聞エ心基部ニ於テハ

第二肺動脈音時トシテ第二動脈音ガ亢進ス

腹部ハ視診上著明ナル膨滿ヲ見ズ但鼓腸ノ若干強キモノアリ重症中ニハ舟狀著明ニ陷凹セルモノアリ腹壁靜脈ガ一見明瞭ニ擴張シ時ニ觸診上腹水

水存在ヲ惟ハシムル波動ヲ證明スルアリ

時ハ時トシテ其ノ濁音界擴張ヲ見ル程度ナルアルモノ觸知スルノ例ナシ

肝縁ハ僅カニ觸ルモノアルモノ多ク、觸知セズ但シ肝部ニ壓痛ヲ有スルモノ相當アリ

肝ノ濁音界ハ肺肝界稍上昇ヲ思ハシムルト共ニ下界ハ明瞭ナラザルモノ多シ腹壁ハ觸診ニ方ニ腹壁緊張セルモノ多ク從テ軟キ空氣枕ヲ觸シ或ハ

綿ヲ觸ル、ガ如キ感ヲ與フルモノハナシ



最モ主要ナル症狀ハ左腸骨窩ニ於テ有痛性ノ索狀物ヲ觸知スルコト多キコトナリ索狀物ハ菲薄ナル腹壁ヲ透シテ著明ニ觸レ移動性ナク壓ニ過敏ナリ、中ニハ上記索狀物ハ觸レザルモ何トナク左腸骨窩ノ「デユフアン」ト壓ニ過敏ナル場合モアリ又左腸骨窩ニ於ケル局所的鼓腸ヲ觸ル、モノアリ右側ニ壓痛及腫物等ニ觸レタルモノナシ  
 裏急後重ノ著シキモノハナキモ便意ヲ催スルノ初メ輕キ痙痛ヲ許フモノアリ

腱反射（膝蓋）ハ約半數ニ於テ著明ニ亢進約  $\frac{1}{3}$ ニ於テ減退足クローヌスハ缺如ス

「ケルニツヒ氏」症狀陽性ナルアリ腓腸筋内頭部壓痛ハ一〇〇%ニ於テ存ス

四肢末ノ知覺異常多少存スルアリ

肘窩動脈音及股動脈音ハ約  $\frac{1}{3}$ ニ於テ聽診器ヲ強ク壓スル時ニ於テノミ

聽取スル程度但一例ニ於テハ容易ニ著明ニ聽取スルモノアリ

出血及出血傾向一例ニ於テ（重症例）心窩部ヲ中心トシテ上下ニ約手掌

大範圍ニ亘ツテ皮膚小溢血部ヲ見ル「ルンベルレ」代「現象ハ一例ニ

於テ陰性、血壓九五—七〇ノ如ク最大血壓ノ下降セル例アリ。重症例ニ

ハ此ノ傾向ヲ有ス

其他皮膚ハ一般ニ乾燥シテ惡疫質性ニシテ皸裂多ク（顔貌モ年令ニ比シ



老人ニ見ユ）末期ニ四肢末ニ浮腫（手背足背）ヲ現スアリ（腹水ト共ニ浮腫傾向）  
 畢丸ニハ浮腫ナシ贅疽ハナシ俘虜ノ軍醫ハ下腿ニ於ケル褐色苔狀皮膚（魚鱗癬狀苔）アルモノニ對シ「ベレグラ」トスルモノ之ガ決定ニハ慎重ヲ要ス  
 其ノ他「レイ氏」病（下肢）或ハ特發性脫疽ヲ惟ハシムルモノニ例アリ  
 又下肢末端ニ知覺過敏ヲ訴フルモノ相當見受ケタリ  
 主訴ハ下痢煩渴シ（中等症ニテ一日三立飲水）脱力感ヲ主トシ食思ハ割合ニ存スルモノ多シ  
 尿ハ一日數回一二十餘回水様便（粘液ヲ混スルアリ）血便ハ少シ泡沫ヲ混ズルアリ尿量ハ測定シアラザルモノ多量ヲ惟ハシムルモノアリ特ニ夜間尿量ヲ増スト云フアリ  
 體質（要因）ノ觀點カラ所長ノオ話ニヨレバ此等ノ俘虜ハ特ニ技術者ヲ撰擇シタ關係上元來ガ体力ノ劣等ナル者ガ多イトノコトデアアルガ診タトコロ抄クモ体格ニ於テハ元來ガ麻痺性焦力性体型ガ多數ヲ占ムルノデハナイカト惟ハレル向ガアル  
 以上ハ重症例定型症狀ヲ呈スルモノノミニ付キテノ症狀ニシテ症例ヲ追加スルコトニヨリ多少ノ追加ヲ要スルモノアラン以上ニ由テ接シ結言スルニ從來報告セラレアル所謂削瘦型戰爭榮養失調症ニ該當シ



(一) 本症ノ基礎的症疾ハ慢性大腸炎型下痢症ナルモノ多ク腸管系傳染病就

中細菌性赤痢及「アメーバ」其ノ他ノ原蟲檢索ニ重點ヲ指示スルヲ要

ス又混合感染ニ注意スベキハ勿論ナリ

(二) 「マラリヤ」ノ既往症ヲ有スルモノ少カラズ脾腫大等ハナキモ潜伏性

「マラリヤ」ハ次デ重視スルノ要アリ

(三) 若干ニ脚氣症狀神經炎ヲ呈スルモノアリ

然レドモ俘虜自身ガ考ヘアル如ク現在ノ狀況ハ單ナル榮養不良或ハ「ア

ピタシノイザ」ヲ主体トスルモノニアラズ

(四) 出血及出血傾向浮腫（腹水）ハ重症慢性赤痢ニ見ルガ如キ型ナリ

(五) 數名ハ極メテ重症予後樂觀ヲ許サザルモ缺余ハ治療ニヨリテ恢復ヲ約

束シ得

(六) 臨牀對策トシテ次ノ如シ

1、 寡蛋白血症ノ除去（吸收シ易キ蛋白質ノ授與牛乳最良就中連續輸

血）

2、 肝庇護療法（高張糖「インシュリン」VC VB注射或ハ其ノ經口的授

與「レモン」肝製劑

3、 原因療法「マラリヤ」「アメーバ」其ノ他ニ對シテ「ヤトレン」

劑要スレバ「エメチン」「キニーネ」劑大蒜劑等

4、 止下劑（アトロピン劑モヒ阿片劑）



- 5、一般栄養療法（消化促進劑消化液分泌促進劑乳酸菌劑）
- 6、水分供給（特ニげんのしよこ浸劑）
- 7、其ノ他（副腎皮質劑VA VD 強心劑）
- 8、恢復期療法（砒素鐵劑各種V劑等）



VA24 自昭和十七年十一月  
至昭和十八年十二月 奉天月報より抜萃

昭和二十二年六月

奉天俘虜收容所に於ける防疫實施狀況

本書類は當局に保管してある書類の正確な抜萃である事を證明する

昭和廿二年五月廿七日

俘虜情報局長官事務取扱

中 西 貞 喜

ASAV 昭和十八年十一月  
自昭和十八年十一月 奉天月報より抜萃

昭和二十二年六月



Doc. Doc. 2002

Doc. Doc. 2002

證據第四號ノ二

VA24 自昭和十七年十一月  
至昭和十八年十二月 奉天月報より抜萃

奉天俘虜收容所に於ける防疫實施狀況

本書類は當局に保管してある書類の正確な抜萃である事を證明する

昭和二十二年六月 日

俘虜情報局長官事務取扱

中 西 貞 喜

ASAV